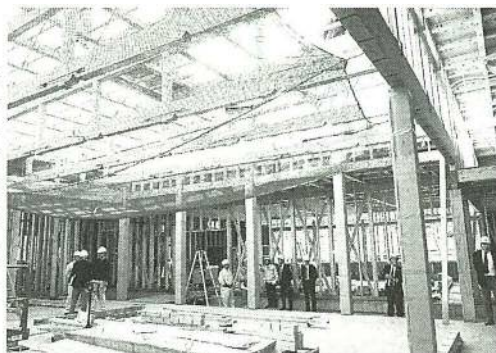


準耐火木造で地区センター建設

10・92メートルスパンをボルトトラスで

茨城県稲敷市

茨城県稲敷市は、市内桜川地区に市役所の分庁舎機能を持たせた地域交流施設「桜川地区センター」を木造で建設している。木造一部2階建ての延べ床面積1414・80平方メートルの建物で、10・92メートルのスパンを一般流通材と住宅用機械プレカットの加工機で加工可能なボルトトラスを使い実現した。



ボルトトラスを使い10・92メートルスパンを飛ばす

同施設は、敷地面積8300平方メートルに地域交流施設と車庫棟を合わせて延べ床面積1414・80平方メートルの準耐火木造で建設される。茨城県が進める公共建築物木造化の方針に沿い、在来工法による木造で建設されることになり、地区センター機能のある公共建築物のため準耐火構造を採用する。そのた

め、ロビーに面する240センチ角など米松集成材の柱は燃えしる設計による現しで使用する。ロビーは10・92×1092メートルの大空間で、ここにプレカットを担当したポラテックオリジナルのボルトトラス5振を用い、大スパンを飛ばす。

ボルトトラスは住宅用機械プレカットと一般流通材を使って実現できるトラスで、束の接合部などはHD金物ではなく、ポラスオリジナルのインクルーズという薄板鋼板をホゾとともに挿入し、金物が表面に露出しないで24kNの耐力を確保できる金具やPロックというオリジナル座金なども使用した。丸山敏之マールハウス社長は「在来工法で大スパンを飛ばすために、ボルトトラスを提案してもらった」と話す。

大会議室周りの柱も米松集成材190×240、350センチなどの平柱を使用している。使用木材は約300立方メートル。外部には約200平方メートルのウッドデッキを施工する。外壁はセメント系中空押し出し成型板18センチとALC

50センチ、ガルバリウム鋼板も使用する。

2016年12月17日に着工し、17年6月14日までの工期。設計・

監理はマールハウス、施工は細谷・松浦特定建設工事共同企業体、プレカットはポラテックが担当した。